

胡綜(偉則)の簡単中国語

取材・介子嘉

ということで、私胡綜の「中国語旅行編」です。
建業に旅行にいらっしゃる皆様に南京の中国語を紹介
します。

さて、中国語の基本は声調と言われるものです。
この声調、一声、二声、三声、四声と軽声と分類さ
れます。よくN * Kの中国語講座とかでやってます
ねー、あの「マァ、マァ、マァ、マァ」というやつで
す。って、字で書くとどれがなにやらわかりませんな
(汗)

それじゃ一声から

これは「あーっ」と叫ぶときみたいに、最初に出し
た声の初めの音と、語尾の音がまったく変わらないん
です。えーと...音の講義は公瑾兄にお任せしてもよい
でしょうか？

特別講師、周公瑾です。

音で説明した方がわかりやすそうということで、
この声調の説明だけ担当します。

まず中国の標準語というのは日本語とは違って大体

の発音が二拍です。どれもこれも伸びる音だということですね。

それじゃ、**一声**の説明ですが、この**一声**、例えば声の出だしを「ド」の音で出したらドの音から変わってはいけません。「一」というのを中国語で「イー」と言いますが、この「イー」と言ったときに例えば最初「ミ」の音で声を出したら「ミー」の音程で言うわけです。

次に**二声**、これは初めの音よりも最後の音が高くなります。**二声**のは...「兒子」の児か。これは「アル」と読みますが、日本語よりも「ア」と「ル」の境目があいまいです。この言葉では、例えば「ア」をドの音で言ったら「ル」を3音高いミの音で言うという感じですかね。

それから**三声**、これは後ろの音が少しあがるけれども、**二声**ほど顕著には上がらないという声。「ニィハオ」というのがそれですが、例えば「二」をドで言ったら「ィ」はドシャープかレの音ぐらいで言うといいでしょう。**三声**と**三声**がつながったときには前にある**三声**の音が**二声**に変わります。

四声になると、これだけは明らかに音が下がります。日本語で、ドラマなどで驚いたときに女性が「まあ！」と言うでしょう。あの感じですね。ドで出した

ら最後はうぐらいに下がる。「用」という字がありますね、これは。これは「ヨン」と読みますが、「ヨ」をドで言ったら「ン」をうぐらいに下げて発音するということです。

最後に軽声ですが、これだけは一拍で終わる音です。つまり、出した音以上に上がりも下がりもしない。まあ、アクセントで、それにつく音よりもどれぐらい低いかでニュアンスは変わってきますが。例えばよくあるのは「マ」というもの、これは疑問文の時につくのが有名ですが、例えば「是マ」と言ったときに「シイマ」と言って...「是(シイ)」は四声ですね。「マ」がそれほど顕著に下がらなければ「そうなの？冗談でしょう？」と言うぐらいの意味にとられます。もし「マ」が顕著に下がれば「そうだったのか！」と言う感じですね。と、こんなところでおわかりいただけでしょうか？

あ、ちなみにここで出した音階はあくまで雰囲気のための例なので、最初がドだろうがレだろうがミだろうがファだろうがまったく関係ありません。自分の出しやすい声でだしてくださいね。

それでは皆様、また次の機会に！（あるのか？そんな機会）

...ありがとうございました、公瑾兄…。なんだかなんの講義なんだかわからなくなってきた。

気を取り直して、まずは普通にご挨拶、「ニィハオ」声調は3 3ですので、2 3の声調になります。これは「こんにちは」だそうですね。

それから「ワンアン」声調は3 1、「おやすみなさい」「ザイチェン」は4 4で「さよなら」、日本人の方結構知ってらっしゃるみたいでよく声をかけてくれます。友達同士なら「拝拝」で「バイバイ」でもいいのです。

買い物では「これはいくら？」と聞きますよね、これは普通には「ドウオシアオチェン？」(1 3 2の声調)と言います。でも南京では「ジェガ(4)ゼマ(2)マイ(3)ナ？」

買い物をするときには値切って買え！というのが鉄則。

そのまま言われた値段で買うと、別のところで半額以下で売っていたりもするのです。「タイ(4)グイ(4)バ！」と言えばそれで交渉が始まります。

お店の人に言われた額の半額ちょっと下回るぐらいの値段から交渉をはじめます。

お店の人が「ブシン(だめ)」と言ったら、後は筆

談ですね (^ ^ ;)

「ザイ (4) ピエンイ (2 と軽声) ディエン (3)」で意味は「もうちょっと安くして」

あ、小吃 (シアオチイ : 定食やさん) では使えませんよ、この言葉。

最後には買っても買わなくても「シェシェ (ありがとう)」と言いましょね。

定食屋さんでは...

「ツアイダン (4 1)」と言えばメニューを出してくれます。

料理は適当に、人数マイナス1 ぐらいのお皿の数を頼むのがいいでしょうね。

いえ、先輩たち (孫策、周瑜、太史慈、周泰、呂蒙、呂範、凌統、甘寧、韓当、黄蓋などなど) と食べに行くとそれじゃ足りないですけど。普通の人なら足りません。

南京の小吃では言わなくても白飯を出してくれますが、白飯がほしいときには「ミィファン (3 4)」と言います。

お箸は「クァイツ (4 と軽声)」、おわんは「シアオワン (2 3)」です。

お茶は「チャアシュイ (2 3)」、普通のお湯なら「カ

イシュイ(13)、「クウコウ(13)クウルウ(34)」でコカコーラ、「シュエビィ(34)」はSprite。漢字で書くと「可口可樂」と「雪碧」あ、ペットボトルの緑茶にはご注意ください、日本人はなれてないみたいですけど、お砂糖が入ってます。

さて、食べたらお勘定、「マイダン(3と軽声)」と言えやお勘定をしてくれます。

要らないという言葉

これは普通に「ブヤオ(軽声と4)」、お店の人がしつこいときには「マッダチェン」(チェンは2)と言います。

この「マッダ」は南京の方言、「没有(メイヨウ)」の意味。

...日常に使う言葉ってこのくらいですかね...他にもなにかあったら言ってくださいね~。

それでは、呉国の詩人胡偉則の中国語でした~。
(...ピンインが出ないって結構不便かも...)